

【問題 9-1】 材料の購入

太田建設の次の資料を参照し、(1)、(2)の仕訳を示しなさい。

資 料

- 1 材料掛仕入高 590,000円
- 2 引取費用(外部材料副費)の実際発生額(代金未払) 24,500円
- 3 保管料(内部材料副費)の実際発生額(代金未払) 10,900円

- (1) 材料購入代価に引取費用の実際発生額のみを加算した金額を取得原価とした場合の材料取得の仕訳を示しなさい。
- (2) 材料購入代価に引取費用の実際発生額と保管料の実際発生額を加算した金額を取得原価とした場合の材料取得の仕訳を示しなさい。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)	-----		-----	
(2)	-----		-----	

【問題 9-2】 材料の消費(実際消費額・棚卸減耗費の算定、仕訳)

主要材料(すべて直接材料)の月初有高は1,000kg、@99円、月間の購入高は20,000kg、@120円、月間の主要材料の払出高は20,000kg、月末の材料実地棚卸高は980kgであった。よって、材料払出と棚卸減耗処理の仕訳を①先入先出法、②後入先出法、③総平均法により示しなさい。なお、使用できる勘定科目は材料、未成工事支出金、棚卸減耗費のみとする。

【解答用紙】

① 先入先出法

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
材料払出								
棚卸減耗								

② 後入先出法

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
材料払出								
棚卸減耗								

③ 総平均法

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
材料払出								
棚卸減耗								

【問題 9-3】賃金の支払

次の取引について仕訳しなさい。勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

賃 金 現 金 立 替 金 預 り 金

- (1) 賃金総額300,000円から、従業員に対する前貸し分20,000円、源泉所得税50,000円、社会保険料10,000円を控除した額を現金で支払った。
- (2) 賃金を支払った際に控除していた源泉所得税50,000円および社会保険料10,000円について現金で納付した。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)	-----	-----	-----	-----
	-----	-----	-----	-----
(2)				

【問題 9-4】賃金の実際消費(賃金勘定の記入)

次の取引について仕訳を示すとともに賃金勘定の記入を行いなさい。なお、給与計算期間は毎月20日締め、25日に支払いが行われる。勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

賃 金 現 金 未成工事支出金 工事間接費
預り金 未払賃金

- (1) 7/1 前月末払賃金は150,000円であった。再振替仕訳を行う。
- (2) 7/25 当月分の賃金(6/21～7/20)の支払いを行った。賃金支給総額は400,000円であり、源泉所得税、社会保険料の従業員負担分40,000円を控除した残額を現金で支払った。
- (3) 7/31 当原価計算期間(7/1～7/31)における賃金の要支払高(実際消費額)は450,000円であった。うち、直接労務費となるものは330,000円であった。
- (4) 7/31 当月末における未払賃金200,000円を計上した。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

賃 金			
7/25	諸 口	7/1	未払賃金
7/31	未払賃金	7/31	未成工事支出金
		7/31	工事間接費

【問題 9－5】賃金の消費(予定消費 1)

次の取引について仕訳しなさい。勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

賃 金 賃 率 差 異 未成工事支出金 工事間接費

- (1) 実際直接作業時間（どの現場で発生したかわかるもの）は900時間、間接作業時間（どの現場で発生したかわからないもの）は100時間であった。当建設では、労務費について、1作業時間あたり400円の予定賃率で計上している。
- (2) 賃金の実際消費額は405,400円であり、予定消費額との差額を賃率差異勘定に振り替えた。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)	-----		-----	
(2)				

【問題9-6】賃金の消費(予定消費2)

次の取引について仕訳しなさい。勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。
なお、当建設は労務費の計算において予定賃率を採用している。

賃 金	現 金	立 替 金	預 り 金
未成工事支出金	工事間接費	賃 率 差 異	

(1) 当月の実際作業時間の内訳及び期首における予定賃率算定のためのデータは以下のとおりである。当月の賃金消費額を計上した。

① 当月の実際作業時間の内訳

直接作業時間（どの現場で発生したかわかるもの） 1,500時間

間接作業時間（どの現場で発生したかわからないもの） 300時間

② 期首における予定賃率算定のためのデータ

労務費年間予算額 14,400,000円

予定年間作業時間 12,000時間

(2) 当月中における賃金総額は2,226,000円で、所得税預り金80,000円を控除した金額を現金で支払った。

(3) 月初の未払賃金は330,000円、月末の未払賃金は300,000円であった。賃率差異を計上する。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

【問題 9-7】 外注費・経費消費額の算定

次の資料によって、各経費の当月消費高を算定しなさい。

資 料

- a. 未払費用、前払費用の月初および月末残高(単位：円)

	月 初	月 末
外 注 費 未 払 高	52,000	60,000
保 険 料 前 払 高	7,000	8,000

- b. 外注費当月支払高：622,000円
 c. 保険料当月支払高：260,000円
 d. 減価償却費年額：936,000円
 e. 電力料の測定量に基づく当月発生額：182,000円
 f. 電力料当月支払高：184,000円

【解答用紙】

- (1) 外 注 費 _____ 円
 (2) 保 険 料 _____ 円
 (3) 減 価 償 却 費 _____ 円
 (4) 電 力 料 _____ 円

【問題 9－8】外注費・経費の仕訳 1

以下の取引を経費発生時の仕訳として(ア)具体的費目の勘定(外注費勘定、電力料勘定)を用いて処理する方法、(イ)経費・外注費勘定を用いる方法、(ウ)直接、未成工事支出金勘定又は工事間接費勘定へ振り替える方法を採用した場合のそれぞれについて仕訳を示しなさい。なお、仕訳の必要のないものは、解答用紙の借方欄に「仕訳なし」と記入すること。

- (1)－① 支払請求書により請求された外注費50,000円について現金で支払った。
 (1)－② ①の外注費を未成工事支出金勘定に振り替えた。
 (2)－① 電力料の当月測定高は84,000円であった(当月未払いであり、未払電力料勘定により処理する)。
 (2)－② ①の電力料を工事間接費勘定に振り替えた。

【解答用紙】

(ア)具体的費目の勘定を用いて処理する方法

番号	借方	金額	貸方	金額
(1)－①				
(1)－②				
(2)－①				
(2)－②				

(イ)経費・外注費勘定を用いる方法

番号	借方	金額	貸方	金額
(1)－①				
(1)－②				
(2)－①				
(2)－②				

(ウ)直接、未成工事支出金勘定又は工事間接費勘定へ振り替える方法

番号	借方	金額	貸方	金額
(1)－①				
(1)－②				
(2)－①				
(2)－②				

【問題 9-9】経費の仕訳 2

次の月末の取引を仕訳しなさい。なお、使用できる勘定科目は以下のとおりである。

当座預金	材 料	未成工事支出金	工事間接費
未払水道光熱費	修繕引当金	減価償却累計額	

- (1) 特定製品の製造のために外注費が200,000円発生し、小切手を振り出して支払った。
- (2) 建物等の減価償却費の年間見積額が2,880,000円であるので、その月割額を工事間接費として計上する。
- (3) 機械等の年間修繕費の予定額は840,000円であるので、その月割額を当月分経費として修繕引当金に計上する。
- (4) 当月の水道光熱費の測定額は344,000円であった。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

【問題9-10】費目別計算のまとめ問題2

次の取引を仕訳しなさい。ただし、勘定科目は以下の語群の中から最も適切なものを選択すること。語群の中にない勘定科目は使用しないこと。

未成工事支出金 工事間接費 未払金 機械減価償却累計額
材 料 未払電力料

- (1) 工事指図書 # 101の建物を製造するため、材料D 54,000円を出庫し、外注先に加工を依頼した。なお、当社では材料を外注のため無償支給しており、材料を外注先に引き渡すときに通常の出庫票にて出庫の記録を行っている。
- (2) 上記(1)の外注先が下請作業を実施した。請求書によると外注費は18,000円であった。
- (3) 材料倉庫の棚卸を行い、材料の減耗23,000円が発見されたので棚卸減耗費を計上した。
- (4) 当月の機械減価償却費を計上した。機械減価償却費の年間見積額は900,000円である。
- (5) 月末に、当月分の電力消費量の測定結果にもとづいて、電力料260,000円を計上した。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

【問題 10-1】 工事間接費の配賦(実際配賦、配賦基準、仕訳)

当月建設物甲(工事指図書#1)及び建設物乙(工事指図書#2)の2工事の建設活動を行った。次の資料にもとづき、(1)各配賦基準における工事指図書#2への工事間接費配賦額を計算するとともに、(2)機械作業時間法により各工事へ配賦した場合の原価計算表(一部)への記入を行い、(3)配賦時の仕訳を示しなさい。なお、当工場は工事間接費の実際発生額を各工事に配賦している。

資 料

- 1 当月工事間接費実際発生額 8,640,000円
- 2 当月消費データは以下のとおりである。

	工場全体データ	工事指図書#2
直接材料費	12,000,000円	4,800,000円
直接労務費	15,000,000円	7,200,000円
直接作業時間	45,000時間	18,900時間
機械作業時間	43,200時間	18,000時間

【解答用紙】

- (1) 各配賦基準を採用した場合の#2への配賦額

①	直接材料費法	配 賦 額	円
②	直接労務費法	配 賦 額	円
③	素 価 法	配 賦 額	円
④	直接作業時間法	配 賦 額	円
⑤	機械作業時間法	配 賦 額	円

- (2) 原価計算表の一部

	#1	#2	合 計
.....
工事間接費
合 計

- (3) 配賦時の仕訳

	借	方	金 額	貸	方	金 額
配賦時						

【問題 10－2】 工事間接費の予定配賦 1

工事間接費に関する次の取引を仕訳しなさい。なお、解答に当たって使用できる勘定科目は以下のとおりである。

未成工事支出金 材 料 賃 金 経 費
 工事間接費 工事間接費配賦差異

- (1) 工事間接費を直接作業時間を基準に予定配賦した。予定配賦率は@1,000円であり、当月の実際作業時間は760時間であった。
- (2) 材料、賃金、経費それぞれの当月間接費実際発生額は、330,000円、200,000円、296,000円であった。実際発生額を工事間接費勘定に振り替えた。
- (3) 予定配賦額と実際発生額との差額を工事間接費配賦差異勘定に振り替えた。

【解答用紙】

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)				
(2)	
	
(3)				

【問題 10－3】 工事間接費の予定配賦 2 (原価計算表の記入)

以下の資料にもとづき、(1) 原価計算表(一部)の記入を行うとともに、(2) 工事間接費の配賦に関する仕訳、(3) 工事間接費配賦差異を計上する仕訳を示しなさい。

資 料

1. 工事間接費を予定配賦しており、予定配賦率は直接労務費の125%である。各工事において消費された当月直接労務費は、解答用紙の原価計算表にすでに記入済みである。
2. 工事間接費の当月実際発生額は1,295,200円である。

【解答用紙】

(1) 原価計算表の一部(単位：円)

	# 101	# 102	# 103	合 計
.....
直接労務費	320,000	246,000	480,000	1,046,000
工事間接費				
合 計

(2)、(3) 配賦時及び配賦差異計上時の仕訳

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(2)				
(3)				

【問題 10－4】 工事間接費の予定配賦 3 (基準操業度のちがい)

次の資料に基づき、基準操業度として年間実現可能最大操業度を選択する場合と年間次期予定操業度を選択する場合のそれぞれについて、予定配賦額(配賦基準は直接作業時間である)を算定しなさい。

資 料

1. 年間実現可能最大操業度と年間次期予定操業度及び各作業時間に対する工事間接費予算額は以下のとおりである。

基 準 操 業 度	直 接 作 業 時 間	工 事 間 接 費
年間実現可能最大操業度	60,000時間	81,000,000円
年間次期予定操業度	48,000時間	72,000,000円

2. 当月実際直接作業時間は3,850時間であった。

【解答用紙】

年間実現可能最大操業度 _____ 円

年間次期予定操業度 _____ 円

【問題 10－5】 工事間接費配賦差異の差異分析(公式法変動予算)

次の資料に基づき、工事間接費配賦差異を計算し、それを予算差異と操業度差異に分析しなさい。

[資 料]

1. 工事間接費月間予算データ
 月間基準操業度 800 時間 (直接作業時間)
 公式法変動予算による月間の工事間接費予算額
 変動費率 400 円/時間
 固定費 480,000 円
2. 工事間接費実際データ
 当月の実際直接作業時間 785 時間
 当月の工事間接費実際発生額 811,700 円

【解答用紙】

工 事 間 接 費 配 賦 差 異 _____ 円 () 差異
 内 訳 予 算 差 異 _____ 円 () 差異
 操 業 度 差 異 _____ 円 () 差異
 () 差異には、借方差異のときは(借方)差異、貸方差異のときは(貸方)差異と記入しなさい。

【問題 10－6】原価計算の仕訳、原価計算表の記入

次に示した下記資料に基づいて、答案用紙の工事指図書別原価計算表を完成させるとともに、(1)から(5)の取引を仕訳しなさい。ただし、使用する勘定科目は、下記の中から適切なものを選択すること。

使用できる勘定科目……現金、材料、未成工事支出金、完成工事原価、賃金・給料、
工事間接費、原価差異

なお、当月は工事指図書 #201、#202、さらに#203の建設を行った。#201は前月着手(月初未成工事原価は580,000円)、#202、#203は当月着手である。

資 料

(1) 当月における材料および賃金・給料の消費高は、次の通りであった。

	工 事 指 図 書			工事指図書 番号のないもの
	#201	#202	#203	
材 料	246,000 円	589,000 円	417,000 円	103,000 円
賃金・給料	372,000 円	480,000 円	240,000 円	222,000 円

(2) 工事指図書 #201 と #202 について、下請企業に無償で支給した部品が、加工後すべて納入されたので、その加工賃 214,000 円と 161,000 円を現金でそれぞれ支払った。

(3) 機械作業時間を基準にして工事間接費を予定配賦している。年間の予定機械作業時間は 10,800 時間であり、年間の工事間接費予算は 15,660,000 円である。予定配賦率を用いて、工事間接費を各工事指図書に配賦した。なお、当月の機械作業時間は、次の通りであった。

	工事指図書 #201	工事指図書 #202	工事指図書 #203
機械作業時間	164 h	372 h	328 h

(4) 工事指図書 #201 と #202 が完成した。

(5) 工事間接費配賦差異を計上した。ただし、当月の工事製造間接費発生額は、上述したものを除き、940,700 円であった。

【解答用紙】

工事指図書別原価計算表

	# 201	# 202	# 203	合 計
前月繰越				
直接材料費				
直接労務費				
外注費				
工事間接費				
合 計				
備 考				

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)	-----		-----	
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				